

大牟田市総合計画審議会（第9回）会議録等

- ◆ 日 時 令和元年10月1日（火）18:00～18:30
- ◆ 場 所 大牟田市役所北別館第1会議室
- ◆ 委員出席状況 出席17人
欠席3人
- ◆ 議 事

○会長あいさつ

会長 これまで審議を重ね、答申案を確認する運びとなったのは、ひとえに審議会の委員の皆さんのおかげ、会長として感謝したい。

1. 議事

(1) 答申（案）について

会長 それでは、審議事項である答申書案について起草委員会より報告をお願いします。

委員 前回、第5次総合計画まちづくり総合プランの答申においては、委員から出された意見をもとに、より大括りにしたような形で取りまとめられていたが、起草委員会においては、基本目標ごとに、より具体的に、箇条書きのような形で意見をとりまとめたが分かり易く、今後、アクションプログラム等ができた時もこの部分が重点化されたのだと分かり易いと考え、取りまとめを行ったところである。

答申書案を読み上げて報告。

事務局 第8回までに出た意見をまとめ、答申書案に添付する形で答申する旨を説明。

会長 答申書案について、質問や意見はあるか。

委員 「暮らせています」という表現は、「暮らしています」という表現に変更したほうが良いという意見がでていたと思うがいかがか。
大牟田市では「認知症」という表現はつかわず、「ほっと安心」という表現をつかっていく方向に変わったと認識しているがいかがか。

事務局

起草委員会にて「暮らせています」という表現について意見をいただいた際に、将来街がこういった状態になっているということを表現している旨を説明し、ご理解いただいたという認識で、そのままとしていたところである。

「認知症」の文言の取扱いについて、訓練の名称としては、徘徊や認知症という言葉をつかうのかという議論があり、訓練の名称が変更されたという経過がある。

しかし、認知症という言葉自体をつかわないという議論結果には至っていないと認識している。認知症は医学的用語でもある。徘徊というような一方的な決め付けによる言葉ではないことや、国や県が使用しているため、答申で使用して問題ないと考えている。

委員から頂いたご意見は原課に伝える。

委員

認知症という言葉は、今後も使用するという考えで良いのだろうか。

事務局

認知症については、医学用語としても使われているため、つかってよいと考える。しかし、今後も国や県、学会の動向はみていきたいと考える。徘徊という言葉については、本人にとっては目的があつて家や病院等から外出しているのだが、徘徊という言葉を読み解くと目的もなくうろうろしているという意味であるため、その言葉を使うことは、やめようということになった。

委員

SDGs という言葉が使用されている。SDGs 未来都市に選定されたと聞いたが、その点について教えていただきたい。

事務局

本年7月1日に選定された。世界はもとより国では安倍首相を筆頭に進めていくこととなっている。昨年度30自治体、今年度31自治体が、選定されている。経済・社会・環境を統合的に取組み進めることができるポテンシャルが高い都市として選定された。本市では認知症やESD、閉山後の環境関係の取組みをみて認定されたのではないかと考える。SDGsの位置付けや施策と17ゴールと169ターゲットとの関連性を整理しながら今後より一層のPRに努めていきたい。

会長

他にご質問、ご意見なければ、この内容で市長に答申したいと思う

がよろしいか。

委員（全員） はい

会長 それでは、答申書案については、本審議会において承認を得たものとして、市長に答申する。

(2) その他

事務局 10月7日（月）に市長へ答申を行う。
明石会長、糸永副会長、他委員4名、計6名については確認がとれている。
他に出席される方はいないか。

委員 なし。

以上（18：30）終了